

いま協同を拓く

2004 全国集会

in ながの

集会を終えて

実行委員 の感想

松島松翠（実行委員長・佐久総合病院名誉院長）

全体集会での田中知事の発言はなかなか良かった。知事を改めて見直した。また、寺島実郎さんの話も、普段知らないことが多く大いにためになった。

この集会の準備を含めて非常にご苦勞をいただいた事務局長の原山さんには大いに感謝したい。残念だったことは、長野県厚生連の協賛が得られなかったことである。田中知事問題だけでなく、協同集会というと、ちょっと色目で見ている点があるのではないかと思う。この点では農協も同じである。

今後、この集会の継続的発展がぜひ必要であるが、県内各地区の参加団体や住民組織、NPOを含めて、できるだけ多くの住民や行政が参加できるような集会にしていくことが望まれよう。

依田発夫（副実行委員長・長野県高齢者生活協同組合）

長野県非営利協同懇談会の長年にわたる活動をベースにして、今回の「協同を拓く2004全国集会」が開催できたことを実感しています。集会が真に成功したかどうかを決めるのは、これからの非営利協同懇談会をはじめ、参加組織の地域への広がりがどうかによると

思います。このことを肝に銘じています。

鈴木友子（事務局次長・長野県高齢者生活協同組合）

参加して下さった皆さんは、集会を楽しんでいただけでしょうか。元気になって帰られたのでしょうか。そして今も心に残っているのでしょうか。

私は、この集会に実行委員として関わることによって、多くのことを学び、新たな人々との出会いを得ました。また、自分自身の力不足も痛感しています。今の思いや出会いを大切に、これからの活動・事業に活かしていきたいと思います。

そして、表舞台には出ていなかったのですが、おもてなし館の料理をあたたかい思いで作って下さった女性グループの皆さんに深く深く感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

市川英彦（長野県高齢者生活協同組合）

失われつつある人間らしさを取り戻すことは、21世紀の地球的課題です。これを達成する力は協同を置いてほかに無いと信じます。今集会において、一層その感を強くしました。今後の発展に積極的に参加していく決意を固めました。

小沢房生（長野県高齢者生活協同組合）

人間が人間らしく生き、暮らし、働くことを協同の力で招く、信州らしさをもった集会にするという当初の目標に対して、努力の成果をあげることはできた。しかし、全体会1800人の会場に参加者1200人は反省点である。非営利協同懇談会の組織を各地域につくり、持続的に発展させることを大切にしたい。

この集会の準備のなかで人との出会いがあり、地域に協同のネットワークをつくる可能性を発見した。「P. P. K. 信州づくり」に対する一層の奮闘を決意したい。

永井美子（長野県高齢者生活協同組合）

最初は多勢の人が集まるか心配でした。でも、当日になって集まった人を見て良かったというのが本音です。第7分科会は、みなさん元気でいろいろな意見もたくさん出て、元気をもらいました。学んだことをこれから各地域でどう生かしていくかが課題だと思います。元気をもらった分、元気を出したいと思います。

田嶋季晴（長野県高齢者生活協同組合）

全体会が大変充実していて良かった。田中知事と堀内さんの対談は、組合せが良かった。知事の主張もよく分かり、コモンズの意味も理解できた。寺島さんの記念講演では、グローバルな展望のもとに日本の向かうべき方向への示唆が数値も使って示された。

全体として熱気のある集会だった。「協同」を今日まで築いてきた先人たちの取り組みの成果だった。折角の集会に、自治体の職員や教師の参加があまり目立たなかったことは残念。

本田光子（長野県高齢者生活協同組合）

ものすごい集会だったんだと今改めて感じています。田中知事の話はわかり易くて、その施策には共感するものが多いのに、県民ひとりひとりに浸透していないもどかしさを感じました。奇異な行動をマスコミが大げさに取り上げて、県民支持を意図的に操作している気がします。残念でなりません。

分科会では、報告者の多彩な取り組みを聞き、“高齢になってもまだまだ元気に地域で活躍していけるんだよ”と教えられた気がします。地域で活躍し、役に立つということが、より元気な高齢者をつくっていくのだということを実感しました。人は何歳になっても役割があり、誰かの役に立っているという実感が生きがいにつながることを分科会参加者が感じ取れるような集会だったと思います。協同は特別なことではなく、日常生活のどこにでもある活動、それを意識できるようになったことは、とつてもすばらしい時間を得たということだと思っています。

鷹野邦一（長厚労佐久総合病院支部）

介護保険の見直しがある事で集会がタイムリーであった。第2分科会は、収容数100席の会場に108名の参加者で大成功であったと思う。内容も厚生労働省の高木さんの資料がとても丁寧で分かり易くて、素人の私にも介護の社会問題が見えた気がした。しかし、開始5分前に来られ、データが無い事で運営に困った。ほかの報告も、行政、特養、コープといろいろな立場のいろいろな実践の話で、長野県人らしさがよく伝わり、「人らしく生き、暮らし、働くために」のテーマが参加者の心に届いたのではないのでしょうか。実践こそすべて。

事務的反省として、108名もの参加者に3

名のスタッフで受付から会場の運営はきつく、テープ記録やマイクの調整の対応に苦慮した。

村上盟（労協ながの）

協同セクターの力強い行動の一步だった。今後、さらに大きな“協同の流れ”をつくるために全力を挙げたい。

小林拓（労協ながの）

当日裏方の仕事で、記念対談、分科会などに出席できませんでしたが、充実した2日間でした。

戸谷和貴（労協ながの）

協同集会を振り返ると、いくつかの事が反省として頭に浮かびます。出演する方、裏方で盛り上げる方、お客様との協力が大きな集会をする成功の秘訣だと思います。私はスタッフとして主に参加したのですが、小さく分割すると、どんな段取りでどういう流れでどう人が動かせるかをはっきり示すことが上に立つ人のすべきことだと思います。他のスタッフとの打合せで多くの知恵を出していくことが必要だと思います。

また、参加人数が目標に届かなかったので、もっと自分も多くの人に呼びかけるべきだったと感じました。

山脇敏生（労協ながの中南信事業所）

10月30日は会場系のスタッフとして、集会を舞台の裏側から見えていましたが、古村総監督のスムーズな運営・進行ぶりに感心いたしました。スタッフの任務のため、オープニングから対談、講演、リレー対談もほと

んど話が聞けず、残念に思います。

第12分科会の担当になり、何をどうやって準備して進めていったら良いのか分からず心配していましたが、コーディネーターの松本大学の白戸先生と打合せを重ねるうちに、徐々に姿や形が見えてきました。当日は、経験不足、準備不足もあって思い通りの運営や進行ができず、参加者の皆様にどのようにこの分科会を受け取られたかと心配していましたが、アンケートにAが並んでいてほっとしています。

この集会は自分にとっても、労協の組合員にとっても、成長のいい機会だったと思います。コミュニティ・ビジネスについても何となく分かりかけてきたのかなと思っています。また、関係団体や準備会の方々、分科会の関係者と協同のつながりが出来始めたかなと考えています。今後も非営利協同の広がりをますます大きく発展していけるよう、組合員共々力を合わせていきたいと思っています。

山岸堅磐（信州の教育と自治研究所）

「協同」の力、「協同」への思いは予想以上に強いと感じました。こういう会に教師がもっと多く参加してほしいと思います。というのは、学校の枠を超えて地域の住民とともに参加、行動していかなければ、地域に根ざした教育の未来はないと思うからです。田中知事については、県外からの期待は大きく、県内ではやや低下していますが、彼の改革への理念や勇氣はもっと評価すべきと思います。そういう意味では、知事の全体会の話は良かったと思います。

移動第2分科会ではみなさんに熱心に参加していただいて嬉しく思いました。「脱ダム宣言」、浅川・千曲川の統合的、総合的治水

を「協同」の力で立派に実現できればと思います。「協同」のこれからが大切です。

吉田孝朗（特定非営利活動法人長野県NPOセンター）

今後も非営利を目指す団体として、NPOとも協同して新しい協同をつくれることを期待したい。

宮本暢（千曲市上山田大わらじ委員会）

何も分からない形で参加させていただきました。分科会の運営も色々と考えさせられる事が数多くありますが、何より参加する事に意義があったと思います。知らない人々が集い、目標に向かい力を合わせ、目標達成できたことが良かったと思います。本当に皆様有難うございました。また参加したいと思います。

田島巖（千曲市上山田大わらじ委員会）

全国規模の大集会で発表の機会を与えていただき、力になりました。消えつつあるわら細工のもつエネルギーを地域に与えていきたい。ただ古きをしのぶだけでなく、新しい活用の場を拡大、発掘したい。また、協同とホームレス支援機構の取り組みを進めていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

千曲市上山田大わらじ委員会

実行委員会の事務局の皆様ご苦勞でした。今後も色々ご指導をお願いします。

菊地謙（協同総合研究所）

10回目の協同集会で、ひとつの到達点を示したのではないかと思います。さまざま

な立場の人々が、共に考え合えるテーマとしての「協同」の可能性を改めて感じました。協同集会の今後の方向性を考えつつ、これからの実践を進めていきたいと思います。

藤井由佳（協同総合研究所）

集会を通して多くの方にお会いすることができました。今もたくさんの笑顔思い出します。とくに、歳の多い方のたくましさには驚きました。私たち若い者はそんな大人になれるのだろうか、負けてられないなと思いました。

長野県民の素敵なのは、みなさん自信が長野県のことを好きなおところ。そんな姿を見て、長野県のこと、長野県民のみなさんのことを大好きになりました。

この集会で学んだことが私たちの中で豊かに熟成されますように。

